

当院障害者歯科センターにおける歯・口腔外傷5症例の検討

かがわ総合リハビリテーション病院 診療部 歯科医師 芳地 祐梨

歯科衛生士 大西 香織、佐山 真由美、楠木 奈央

香川大学医学部歯科口腔外科学講座 三宅 実

キーワード：口腔外傷、臨床検討、てんかん発作

要 旨

健常者の歯の外傷は、交通外傷、転落、スポーツによるものが多い^{1,2)}。これに対して、障害者は、疾患による合併症や運動機能及び感覚器の未発達などのさまざまな要因により下顔面外傷や自傷に伴う外傷の頻度が高いとされている³⁻⁵⁾。今回我々は、2019年4月から2020年3月の間に当科を受診した歯・口腔外傷患者5名を、年齢、基礎疾患、受傷状態（部位・場所・原因）、処置内容の項目について後ろ向きに検討し、これからの口腔外傷予防対策の資料とすべく、詳細に検討を行ったので報告する。障害者では前歯を受傷する頻度が高く⁶⁾、自験例においても全例が転倒による上顎前歯部を受傷しており、合併する疾患や習癖に対する自己管理が困難な事や防御反応が弱い事が原因と考えられる。これからもさらに症例の蓄積・分析が必要ではあるが、口腔外傷を念頭に置いた基礎疾患の問診とてんかん発作や頻度を把握することで、口腔外傷予防の可能性が示唆された。

1. はじめに

障害者（児）は、身体的あるいは知的発達・精神的障害が合併していることが多く、転倒等の外傷がある⁵⁾。その際には顎顔面から受傷することが多いと知られている。今回、これからの口腔外傷予防対策の資料とすべく、受傷時の状況及び口腔内症状・処置内容について詳細に検討を行ったので報告する。

2. 方法

2019年4月から2020年3月の間に当科を受診した歯・口腔外傷患者5名を、年齢、基礎疾患、受傷状態（部位・場所・原因）、処置内容の項目について後ろ向きに検討した。なお報告に際し、書面により本人または家族の同意を得た。

3. 倫理的配慮

倫理的配慮として、書面により本人または家族の同意後、かがわ総合リハビリテーションセンター倫理委員会で承認を得た。（倫理承認番号200013）

4. 結果

症例1は、4歳11か月時、5歳7か月時に歩行時の転倒により受傷した自閉症スペクトラム障害の男児である。

4歳11か月時は保育園にて受傷し、上顎両側乳切歯の亜脱臼、5歳7か月時は自宅にて受傷し、上口唇裂創、上顎右側乳切歯、上顎右側乳側切歯の亜脱臼及び上顎左側乳切歯の脱落、上顎左側乳側切歯の亜脱臼を認めた。レストレーナーを使用し局所麻酔下にてデブリードマン、縫合処置、暫間固定術を施行した。

※写真1：受傷時の口腔内写真・デンタルエックス線写真



転倒時(4歳11か月時)
の口腔内写真



転倒時（4歳11か月
時）のデンタルエック
ス線写真



転倒後3か月後
(5歳2か月時)



2回目の転倒時（5歳7か月時）
上顎両側乳前歯の脱落が認め
られた。

症例2は、古典型滑脳症、點頭てんかんの6歳8か月の 診断した。レストレーナーを併用し、局所麻酔下
男児である。てんかん発作の転倒のため、自宅にて受傷 にて消毒処置、暫間固定術を施行した。
し、下口唇裂創、舌擦過創、上顎右側乳前歯の亜脱臼と

※写真2：受傷時の口腔外写真・口腔内写真・デンタルエックス線写真



上口唇が開鎖しておらず
開口状態である。



下口唇の裂創と腫脹が
認められる。



上顎乳前歯の亜脱臼

症例3はダウン症候群、症候性部分てんかんの12歳
8か月の男児であった。(田中ビネー知能検査IQ=36、
生活年齢：9歳11か月、精神年齢：3歳7か月)

学校にて歩行時の転倒により受傷し、顔面擦過創と
上唇小帯裂創と上顎両側中切歯の亜脱臼を認めた。
通法下で局所麻酔下にて縫合処置、消毒を施行し
た。

※写真3-a : 受傷時の口腔外写真・口腔内写真



顔面擦過創と上唇小帯裂創が認められた。

※写真3-b : パノラマエックス線写真、CT画像、上下顎前歯部のデンタルエックス線写真



初診時パノラマX線写真:
疾患特有の歯牙の萌出遅延が認められた。

顎関節や上下顎骨に異常所見なし

前歯部の垂脱臼

症例4は、脳性麻痺（両麻痺）、全盲、重度知的障害の17歳5か月の男性でADLは軽介助にて歩行可能であった。学校にて歩行時に転倒し、受傷した。上顎右側側切歯の完全脱臼、上顎両側中切歯の垂脱臼、

おとがい・下口唇裂創と診断し、レストレーナー使用下にて局所麻酔下でデブリードマン、再植術、0.9mm弾線及び光重合レジンにて固定術、縫合処置を施行した。

※写真4：受傷時のパノラマエックス線写真、デンタルエックス線写真、口腔内写真



パノラマX線写真



右側上顎側切歯：完全脱臼



歯牙再植術・暫間固定術



転倒後7カ月、経過良好

症例5は、自閉症スペクトラム障害の18歳5か月の男性で、ADLはほぼ自立しており、道路上にて自転車で転倒し受診した。顔面擦過創、下口唇擦過創、下顎両側中切歯の完全脱臼、上顎右側中切歯、

下顎左側側切歯の歯冠破折と診断した。笑気吸入鎮静法にてデブリードマン、縫合処置を施行し、後日、日帰り全身麻酔法で歯髄処置、補綴処置を施行した。

※写真5-a：受傷時の口腔外・口腔内写真



顔面擦過創、下顎両側中切歯の完全脱臼、上顎右側中切歯・下顎左側側切歯の歯冠破折

※写真5-b : 日帰り全身麻酔下時の口腔外・口腔内写真



<ミラー像>



下顎前歯部のブリッジ (③②1+1②③) 及び
上顎右側中切歯の補綴物作成

受傷契機は全例が転倒であり、てんかん発作時（古典型滑脳症）が1例、歩行時（ダウン症候群・自閉症スペクトラム障害・脳性麻痺）が3例、自損事故（自閉症スペクトラム障害）が1例であった。てんかん発作が原因である古典型滑脳症の1例は、受傷原因が點頭てんかんによる瞬時転倒であった。全例が上顎前歯部の受傷であり、脳性麻痺の1例では頻回の転倒歴が認められ、同部位の再受傷であった。

5. 考察

障害者の口腔外傷は健常者と比較して、発達・障害の状況で、自己中心的かつ衝動的な行動をとることもあり、また防御反応や危険予測が弱い事や合併する疾患に対して自己管理が出来ないなどの要因が口腔外傷へと繋がるとされている7)。自験例の自閉症スペクトラム障害の2例においても外傷に対する危険予測等の未発達が外傷の原因と考えられた。

自験例でも、てんかん発作による転倒が受傷原因となった症例を報告したが、障害者の歯科受診患者における口腔外傷の受傷原因は、てんかん発作による転倒が過半数と言われており6)、

特にてんかんを合併する疾患の場合には、発作の質が外傷の頻度や受傷具合に関係していることが示唆された。知的能力障害児におけるてんかん合併率は一般に15～30%とされており8)、症例によっては、転倒に対して保護用のヘッドギアが使用されている9)が、形状的に頭部の保護のみであり中下顔面は保護されていない。口腔・歯の保護には、マウスピース型保護床の使用が効果的であったとの報告もある2)が、患者の必要性の認識が得られず、装着すること自体が困難な症例がほとんどであり、マウスピースで口腔外傷を効果的に予防することは容易ではないと考える。

口腔外傷の治療に関しては、観血的処置が必要不可欠となる場合が多い。具体的には、脱臼した場合には歯牙の整復固定術やデブリードマン、裂創等に対する縫合止血処置や消毒である。しかし、患者の治療に対する理解や協力が得られない症例が多く、レストレーナー抑制法や開口器を併用、原始反射の軽減や治療の不安感と疼痛の感受性を軽減する目的に笑気吸入鎮静法の選択を適切に判断する必要がある。

自験例の一例においては、応急処置後に後日、多数歯の処置を短時間に行う目的及び歯科治療の質を維持する目的に、全身麻酔法を選択した。薬物的行動調整法を考慮することにより、患者の身体的・精神的を減らすことが可能となったと考えられる。さらに、通常、外傷歯の整復固定後の咀嚼・咬合制限などの安静が必要であり、障害者の場合では容易ではない。自験例では、咬合調整を適切に行うことで外傷歯の早期脱落や偏位が生じた症例はなかった。

これからもさらに症例の蓄積・分析が必要ではあるが、口腔外傷を念頭に置いた基礎疾患の間診とてんかん発作や頻度を把握することで、口腔外傷を予防出来る可能性が示唆された。

【出典先】

第38回日本障害者歯科学会

【参考文献】

- 1) 甲原玄秋, 佐藤研一: 小児における口腔外傷の実態調査. 小児歯科学雑誌 38(3): 509-513, 2000
- 2) 小川尊明, 岡本雅之, 樋口亜由子, 他: 歯の完全脱臼とマウスガードに対する養護教諭への意識調査. 日本外傷歯学会雑誌 2: 15-21, 2006
- 3) 三宅 実, 土田佳代, 目黒敬一郎, 他: かがわ総合リハビリテーションセンター歯科における障がい者の歯の外傷実態調査. 障害者歯科雑誌 33: 659-664, 2012
- 4) 森主宜延, 金城幸子, 山崎要一: 発達障害児の上顎前歯部外傷の2症例 小児口腔外科, 16: 30-35 2006
- 5) 森崎市治郎, 小笠原 正, 緒方克也, 他: スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科. 第2版, 302-308: 医歯薬出版, 東京, 2017
- 6) 船津敬弘: 重症心身障がい児(者)の外科 口腔外科 小児外科 49: 1088-1091, 2017
- 7) 皆川康之, 坂本洋右, 加藤郁子, 他: 精神遅滞者の口腔外傷に関する臨床的観察 日本口腔顎顔面外傷学会誌 17: 48-52, 2018
- 8) 須江洋成, 岩崎克夫, 宮本千佳子, 他: てんかん発作による転倒と口腔外傷について. Progress in Medicine 32: 967-971, 2012
- 9) 長沼由泰, 高橋 温, 星 久美, 他: 重度知的能力障害にある小児の外傷による下顎骨骨折に対して経過観察による保存的治療を選択した1例 障害者歯科学会雑誌 40: 185-190, 2019